

# 在籍信徒の思い出



# 私の頭の上におられる神様

エステル・外間マツ(93歳)

1985年5月、沖縄市胡屋から、那覇市寄宮に移り住みました。教会は、諸聖徒教会から首里聖アンデレ教会に移りました。首里聖アンデレ教会は、私の家から遠いのですが、前に諸聖徒教会でお世話になった新城喬司祭が居られたので、首里聖アンデレ教会に通うことにしました。新城司祭ご夫妻は笑顔で「外間さん、よく来てくださいました。よかったです」喜んで迎えてくださいました。私は「先生、これからずっとお世話になります」とお願いしました。あれから20年が過ぎました。



## 私の小さな祈り

教会で主日礼拝が始まる前に、私は、家族の事、自分の事、孫、浩樹の事を祈ります。「孫が悪い道に進まないよう、信仰の道に導いて下さい」と祈ります。最近では、「足の痛みが治りますように、元気に歩けますように」と祈ります。お家でも同じようにお祈りします。何事を始める前にお祈りします。炊き込みご飯や野菜天ぷらを作る前には美味しいできますように、美味しいできたら神様に感謝のお祈りをします。老人クラブの踊りの発表会の時は、舞台裏の片隅で神様に「神様、緊張して間違わないように踊らせてください」と祈ります。そんな時、お友達が「あんた何をぐずぐず言っているの」と言います。私は「私の頭の上には神様がおられ、いつも私を守ってくださるからお祈りしたのよ」と言います。その友達は「私の言うことも、神様は聞いてくれるかね」と言いました。

## 楽しい交わり

新城司祭の頃、教会での食事会の時、皆と一緒に話をしながらいただいた事が楽しかった。又私が作って持って行った料理、炊き込みご飯、野菜天ぷら、そうめんチャンプルー等、皆が美味しいと喜んでくださった時は、皆の役に立ててよかったです。又復活祭の礼拝後ピクニックに勝連城趾や、平和記念公園に行って若い人達と一緒に楽しく元気に歩き回った頃を思い出します。

## 末吉公園での野外礼拝

目崎甲式執事の頃、末吉公園前広場で集合して、谷間の下の川岸まで降りた所

の広場で野外礼拝をしました。新城司祭が司式し、目崎執事がお手伝いし、山川さんが電子オルガンを運んで聖歌の伴奏をしました。礼拝後の昼食は、お弁当と私が作った野菜天ぷらを皆で食べた事をおぼえています。

### 姜勇求司祭を迎えて

信徒の交わりを深める愛餐会が月2回あります。愛餐会の後での交わり会で、姜司祭のギター伴奏で聖歌を歌ったり、踊ったり、bingoゲームがある時は、沢山の人が、色々な賞品をもらって喜んでいます。姜司祭になって敬老会は、私達の家族も招いてくださり、信徒の皆さんと家族も一緒に婦人会の一品料理を御馳走になりました。その後礼拝堂で、日曜学校児童を代表して大倉祐君のお祝いのあいさつや、お花とケーキのプレゼントを頂き、とても幸せに思いました。だんじゅ嘉利吉を歌ったり、カチャーシーを踊ったりして、長生きしてよかったですと皆さんに感謝しました。

私は、もう93才になって耳も聞こえにくくなり、主日の礼拝は困っていましたが、助け人（大倉信彦さん）がヘッドホーンを準備してくださり、姜司祭の説教もよく聞こえるようになりました。大倉信彦さんに感謝しています。



## 「わたしは世の光である」

テレサ・森田トミ(88歳)



私は1980年6月、屋我地から、首里に移り住み、首里聖アンデレ教会婦人会の一員になりました。当時、池原貞雄司祭が牧会して居られました。教会生活に精出している時、池原司祭は退職なされ本土に行かれました。その後、新城喬司祭が後任としていらっしゃったのです。私は主日の礼拝を守り、皆さんと一緒に交わりの中で楽しんでいました。

1987年、私は首里聖アンデレ教会が婦人会本部に当たった時、支部全員の支え助けを頂き、2度目の会長になりました。いろいろ本部で教えられました。何事も始めての事でしたので、チャプレンの新城喬司祭のご指導を受けました。本当に有難うございました。教区婦人会の活動として、浦添荘で1泊2日の研修会を計画し、テーマ「美しく老いるために」のお話を小松幸男司祭から聞いたことは、今も思い出になっています。

新城司祭は、教会の建築にも力を入れてくださいました。今の教会を立派に建築されたのも新城司祭で、いろいろと力を出してくださいました。聖書の勉強では、マタイによる福音書6章6節「あなたが祈るときは、奥まった自分の部屋に入って、戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい」、また、ヨハネによる福音書8章12節「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず命の光を持つ」が印象に残っています。新城司祭は、18年首里聖アンデレ教会で勤めました。教え導いてくださり本当に有難うございました。時には、呉屋司祭も教会に参られました。

2006年、韓国から姜勇求司祭がいらして毎日楽しく、大変元気なお方で喜んで居ります。どうか長い交わりを保ち、信徒が多くなるように、皆さんと仲良く交わりを持つことを祈ります。  
アーメン



## 首里城のそばにある教会

セシリ亞・松田イネ(86歳)

首里聖アンデレ教会50周年おめでとうございます。私はこの教会へ来るようになってからまだ2年程です。それまでは島袋諸聖徒教会に行っておりました。50年以上になると思います。若いときは婦人会活動もよくやりました。もう今年で86才になりました。昔のように体はいうことをきかないので、あまり無理をしないようにしています。



首里聖アンデレ教会の設立当時のことはよくわかりません。「首里城のそばにある教会」といったら誰でもすぐわかるので、ほんとに良い場所に教会があるなあ…と思います。又、うれしいことに娘二人と孫たちも首里聖アンデレ教会です。あと何年生きられるかわかりませんが、家族と一緒に教会に行けることがとても嬉しく思っています。これから先、若い子たちがどんどん増えて、教会を発展させていけるように心からお祈りしています。感謝・・・



## しんめー鍋一杯のオデン作り

ルツ・石川盛子(81歳)

早や50年も過ぎ去ったのかと思いました。私は1973年首里聖アンデレ教会に導かれてから40年近くになります。池原貞雄司祭の御子様方と私の子供達も宜野湾のキングスクールに通う仲間として親しくした頃、池原司祭から1974年1月按手を受けるまでになりました。

個人的な事になりますが、私が三人の子持ちで、寡婦でその上認知症の姑も居ることで司祭婦人が「手伝いましょうか、お昼の介助ぐらいなら」と言って下さり、地獄で仏、いや神様に会えた様でしたが、姑は気位が高いので誰も受け入れないと思いお断りしました。市役所の方も心配してくださったのですが、その頃の老人ホームは、2、30名待ちで入所がむつかしく、私は勤めも続けられるか心配でした。池原司祭は、その頃糸満の階生園の理事をしておられ、お計らいで姑が入園出来て、私はやっと心にゆとりが出来ました。

池原司祭は老人ホームを造りたいと話しておられ、聖公会でも老人ホームの話が出た頃、北中城に、エキュメニカルな教会立て特養老人ホーム「愛の村」が出来ました。愛の村の所長には非池原司祭にとの声もありましたが、専任は出来ないと言われ、それなら首里聖アンデレ教会の信徒みんなで協力を約束して、初代所長になられました。私達信徒もおむつ作り、衣服の縫い、入居者とのお話し会など、色々なボランティヤに参加しました。私の姑も、愛の村に移してもらい、安心して奉仕活動も出来ました。それから正月に玄関に花を活けた事がきっかけで、従業員の活け花を担当する事になり、姑の見舞も出来、安心した生活が出来て感謝の日々でした。



教会のバザーでは、その都度、しんめー鍋一杯のオデン作りに司祭婦人が、だし作りから一手にこなし、大根の下準備は、宮里さんと私が受持っていました。前評判の良さもあって当日、近所の人々も鍋を並べて待つ程でした。その頃池原司祭のお家族で瀬戸物市や、おそば、ぜんざ



い、飲み物コーナーも働き手が多く、その上、琉大祭に合わせたので、見事な売れ行きでした。その頃は、何をしても充実していました。子供達もスカウト活動をさせたので、何とか、S・Sのリーダーでお役に立てていたと思っています。

娘が琉球大学卒業後、アメリカに留学するに当たり、池原司祭が身元引き受け人をお世話下さり、ロスの所沢司祭のもとで、UCLAに通う事になりました。その後息子もマサチューセッツの大学に進学しました。池原司祭には、姑はじめ家族ぐるみで大変お世話になり感謝しています。

池原司祭は宣教活動にも励まれ、いきいきの会、伝道大会、修道院のチャプレン、その上、「愛の村」の所長としての大役を務めておられた矢先、「愛の村」を辞職なさった事は、とても残念でした。



次期司祭に新城喬司祭をお迎えしました。新城司祭は、歴史家的な考え方で、イースターには沖縄の名所旧跡回りとか、偉人賢人の足跡を尋ねる事で楽しい思い出が沢山ありました。新城司祭になって、教会も色々な仕組を変え、婦人会も会長を総会で決め、やっと交代することが出来ました。世界祈祷日の係は今もずっと宮里さんが担当し、教区婦人会長は、森田さん、宮里さんの時は、私は縁の下の仕事をしていました。

その後新城司祭も停年退職なさり、目崎甲式執事に代ってから主日礼拝は、退職司祭の新城司祭、呉屋司祭、谷主教様方の御協力で主日が守られました。感謝しています。

次の司祭に韓国から姜勇求司祭が来られ、心機一転して、信徒も増える様になりました。又、宣教方針も色々と変え、信徒の交わりを深めるために、月の第1主日の愛餐会、第3主日にはお握り持ちより愛餐会を行ったり、聖句暗誦大会を行ったりします。高英珠司祭夫人は、料理講習会を開いて信徒の皆さんと仲良く交わっています。また、特に素晴らしいソプラノでミサの聖歌もリードしてくださいています。その都度の司祭夫人方の内助の功は多大なものがあると思っております。

## 美しいハンドベルの響き

ルツ・山川美津(78歳)

わたしの家族が 首里聖アンデレ教会へ導かれたのは1974年11月7日、池原貞雄司祭が牧会されておられた頃でした。あの当時の教会は、宣教のための勉強会「証し」が行われ、婦人会の奉仕活動も盛んで、活気に満ちていました。そんな雰囲気の中で、神様のお導きにより11月24日次女と長男が 池原貞雄司祭の司式により洗礼を受け、12月22日、長女と次女が仲村実明主教の司式により堅信を受けるお恵みに与かり、神様の家族になったことを喜び感謝しました。



暫くして私は勤務と子育て、姑の介護、自分も病気になり、思うように主日の礼拝に出席することが出来ない年月が続きましたが、その折々神様のお導きとお恵みに感謝し、主に支えられていました。

教職を退職後、再び首里聖アンデレ教会を訪れた時、庭の中央がじゅまるの木の下に、伊是名聖霊教会の「鐘」が吊されていました。それを見た一瞬驚きと喜びでした。その「鐘」は、私の信仰の原点である伊是名聖霊教会に時鐘として祈りの時を告げてきた「鐘」です。迷える羊が再び首里聖アンデレ教会へ導かれたのは、神様のご計画の中にあったと思いました。

新城司祭ご夫妻初め、信徒の皆さんとの温かい歓迎を受けて、楽しい交わり、主日の礼拝に出席することで教会に繋がることができ信仰生活が続いています。新

城司祭が退職され、目崎甲式執事（司祭）と成成鐘司祭が後任として牧会されました。

特に思い出に残っていることは、2004年有志からハンドベルの寄贈があり、早速クリスマスイヴ聖餐式の流れの中で、ハンドベル演奏をするに決り、聖歌は「92番ひつじをこうもの」「74番きよしこのよる」「81番かみにはさかえ」の3曲、メンバーは、S S児童3名、婦人会加える7名、指導者は山川宗雄兄でした。初めての試みなので、初歩の練習から曲を覚えるまで約2ヶ月間、特訓を受け皆がなんとか3曲演奏できるようになりました。本番は緊張するので、大



倉信彦兄の協力を得て、オーバーヘッドで映写した楽譜を見ながらの演奏でした。美しいハンドベルの響きで感動的な聖餐式になり、御子イエス・キリストの降誕を祝うための演奏が出来たことを皆で喜び合いました。2007年以後は姜勇求司祭の計画により、婦人会だけのメンバーで、クリスマスイヴや復活日の祝会で演奏の場が与えられました。石川盛子姉が左手を骨折された折、痛さを我慢して練習に励まれたことに、責任感の強い方と思いました。教区の日、石原絹子司祭の司祭按手式の祝会では、華やかな「さくらさくら変奏曲」を演奏し、女性司祭の誕生を祝福することができました。

2005年～2006年、当教会が教区婦人会の役を担当した年、私は教区婦人会長に用いられました。活動として2005年は、各教会の現状を把握するために、役員が各教会を訪問、交流会を持ち、本部への協力をお願いしました。テーマ「祈り」について研修会を実施、朴司祭が「神様の内の希望」の題で祈る一つの方法としてロザリオを作り、それを用いての学びでした。私は日々の「祈り」に用いています。

2006年、谷昌二主教の御配慮で、韓国との姉妹関係のある釜山教区婦人会と沖縄教区婦人会との交流を依頼され、「韓国喜びの旅」(9月21日～25日)の計画を婦人会本部が取り組みました。

準備として、お土産を手作りの刺繡入り小物入れ、琉球絣やレースを使ったコサージュを作ることに決まりました。本部が「喜びの会」(奉仕の会)を立ち上げ、当教会を中心となり近隣教会の婦人会に呼びかけて、ご奉仕して載きました。小物入れの刺繡は福村喜美子姉が、コサージュは田港百合子姉の指導で皆さんのが数ヶ月にわたり、祈りと楽しい交わりの中で支え合いながら、見事な小物入れとコサージュが出来上がりました。お土産は、釜山教区婦人会、ソウル教区才モニ合唱団、クミヨハネ宣教センターの歓迎交流会の場で差し上げ大変喜ばれました。

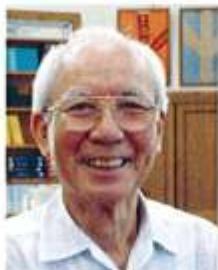
テグ聖フランシス教会において、クリストファー・ファン司祭の指導での默想会で、釜山教区婦人会と共に聖書を学び、祈り、賛美、証しを通して交流を深めしたこと、クミヨハネ宣教センターのアン司祭から、キリスト者としての働き（ご奉仕）について学んだことは、私達にとって貴重な体験で大きな恵みでした。

神様のお恵みに感謝して、神様に喜ばれるご奉仕をして行きたいと思います。



## 家族5人と一緒に…

イサク・山川宗雄(77歳)



1974年11月、私は中学生の娘二人とよちよちあるきの長男を連れて、家族5人と首里聖アンデレ教会を訪れました。池原貞雄司祭は、「長男の誕生おめでとうございます」の言葉の後に「次女と長男の洗礼を準備しましょう」と勧められました。洗礼は11月24日池原貞雄司祭にお世話になりました。

その頃、私は中学校教師で吹奏楽部の顧問をして、土曜日曜も多忙のため、主日礼拝は守られずクリスマス、イースターだけに出席するという怠け者でした。教職退職後も市教育委員会の社会教育指導員として働く傍、首里少年少女合唱団の団長として10年間務め、相変わらず教会から離れていました。でも自分の持てる力を人のため、社会のために働くことは、人間として立派な生き方だと考える自己中心的な考え方で満足していました。

1997年、長男の結婚式の事を新城喬司祭に相談しました。快くお引き受けください、新城喬司祭に感謝しています。

2002年新城司祭が退職され、その翌年の6月29日、司祭不在で目崎甲式聖職候補（後司祭）一人で朝の礼拝を準備されていました。「今日は伴奏者欠席ですので無伴奏で聖歌を歌いましょう」と伝えられました。その時、「私がオルガンを弾いてもいいですか」と許可を得て、3曲を伴奏しました。この事がきっかけで、礼拝委員として奏楽奉仕を9月から月1回、翌年からは月2回に担当が決まり、奏楽奉仕者として今に続いている。

2003年の12月に成成鐘司祭から私はハンドベル指導を依頼されました。1月にハンドベルを購入し、次に楽譜と資料作りから始めました。夏には楽器のお披露目を日曜学校の子供達にしました。クリスマスに向けての練習は、10月からメンバーも決定してスタートしました。クリスマス当日の演奏は始めての試みでしたが、莊厳な雰囲気の中で、主のご降誕を祝い大きな役割を果す事ができ、皆で喜び合いました。

2006年姜勇求司祭が首里聖アンデレ教会に赴任され翌年のイースターやクリスマスの祝会は姜司祭の指導で祝会にハンドベル演奏や、ファミリーバンドの活動の場が与えられました。教区の日、石原絹子司祭按手式後の祝会では、祝いの場に相応しい「さくらさくら変奏曲」(宗雄編曲)で華やかな演奏で成功しました。度々の演奏の場が与えられ、演奏者全員の協力、励まし合いで、お互い同志が堅く結

ばれている事を主に感謝しました。

姜司祭が首里聖アンデレ教会に赴任されて教会内外が大きく変りました。礼拝を大事にする意味を強調され、色々な場面で指導が行われ、礼拝の有様の重要性を強調して指導され、雰囲気も高められ緊張感も出てきました。何よりも主日の説教を多くの信徒が期待しています。礼拝終了後には説教のプリントが備えられ全員持ち帰り、さらに学習に用いています。

教会委員会活動の充実にも力を入れておられます。各担当の仕事確認、計画、実施、反省等、綿密に話し合い実行に移され、その都度、それぞれの活動に姜司祭の宣教ビジョンが熱く語られ、方向性が強調されます。教会の環境整備では庭中央の枯れたがじゅまる撤去、鐘が移動され駐車場が広く整備されました。学生アンデレ寮の塗装、内部修理も行われ学生に喜ばれています。集会室の座卓も、姜司祭の考案でテーブルに変り、製作はお一人で完成させ、次の主日信徒は皆驚きでした。

年間行事も宣教活動に力を入れる目的で検討し、信徒の家族にも声掛けして、楽しい行事、福音が伝わる行事を心掛けて催されています。クリスマスやイースター祝会、敬老会祝会、聖句暗唱大会、信徒の交わり会等楽しく行事を行っています。姜司祭は「私は異邦人に福音を宣べ伝えるために神様に使わされている」と言われます。色々な祝会行事で主を賛美する姜司祭のギターが一段と輝きます。また大倉信彦、祐親子のギターも加わり、高英珠司祭夫人の美声のリードで祝会を盛り上げています。私も微力ながら神からの賜物を生かして教会のため神様に感謝しつつご奉仕を続けたいと思います。



## モード洋裁店の二階から

マリア・石川富子(77歳)

光陰矢の如し、私が首里聖アンデレ教会を訪ねたのは1962年名護から首里に引越して来た時でした。その時の首里聖アンデレ教会はモード洋裁店の二階の1室(8畳位)を借りてジュータンを敷いてその上に正座して、カンタベリークラブの学生さん達と一緒に礼拝でした。その時の司祭様は山本貞彰司祭様でした。先生が「名護の教会で洗礼を受けましたか」と尋ねられたので「いいえ、まだです。キリスト教にまだ納得していませんので洗礼は受けておりません」と申したら「洗礼準備をしましょう。私の処に来るよう」とおっしゃったので先生のお宅に仕事が終わってから週1回通いました。



その時の祈祷書は文語でした。公会問答から始まって十戒、使徒信經、ニケヤ信經をおそわりました。信徒としての心得1、安息日を守る事。2、奉仕をする事。3、献金をする事。4、毎日聖書を読むこと。5、一日の終わりにお祈りをする事等々じっくり教えて下さいました。勉強会が終わってから奥様がいつもおいしいコーヒーと本土から送られた珍しいお菓子や果物を下さったので、難しい勉強会も続けられたかも知れません。又奥様が人に対する接待の仕方も学ばせて頂きました。

その頃首里聖アンデレ教会はオルガニストがいなかったので、先生がオルガンを弾いて聖餐式をなさって又賛美歌を歌わせるという事でした。礼拝の最中に充分に唄う事が出来ない聖歌は礼拝が終わった後練習して次の主日の聖歌も練習して頂いたので、古今聖歌集の大半はここで覚えました。

わたしはその頃、個人の経営する電気店に勤めておりましたので、月に2回の休みしかなかったので、先生は店主と交渉して下さって毎週礼拝に出席出来るようにして下さいました。皆仲良くしなさい、愛し合いなさいと口々におっしゃいました。月1回の愛餐会。「日頃皆さんに奉仕してもらっているので愛餐会は私達二人で準備します」とおっしゃって農連市場で野菜の買出しや鍋料理を作って下さいました。あの頃鍋料理はめずらしい料理でした。鍋を囲んでカンタベリークラブの学生さん達と一緒に賛美歌を唄ったり、子供達はカルタ取りをして遊びました。私の甥マー坊もよく連れて行きました。あの頃5才だった甥も今では53才になっております。楽しかったあの雰囲気が今でも忘れられません。学生さん達は先生にファザー、ファザーと慕っておりました。「私は2ヵ年短い牧会でしたが実に多くのことを学ばせていただきました。」

山本司祭様の離任により三原教会に移ってまもなく、子供の頃患った股関節脱臼、整形手術の為、1年近く入院しました。仲村司祭(後に主教)様は奥様と毎週月曜日には週報とパンとぶどう酒を持っていらして福音書を読まれ短く説教をしてくださいました。私は驚きました。アンデレの信徒で三原教会の礼拝にそんなに出席していないのに毎週倍餐をして下さったので遠慮しましたが「貴方が教会に来て陪餐を受けるまでは続けます」とおっしゃって病院に1年、退院してからも陪餐をして頂きました。

兄は初めの頃は逃げておりましたが次第に心を開いて説教も一緒に聞くようになりました(兄は自営業)。主教様がいらっしゃる日を楽しみにしていました。一緒に教会へ行こうと誘うと早いからと言っているうちにあの世に行ってしまいました。主教様、感謝します。

1967年、西川司祭様が神戸教区から赴任されたので三原教会から寒川のアパートに移りました。今度は母の上の禮拝でした。川平朝甫兄親子と城間源哲兄御家族、小橋川松明兄、永吉京子姉、仲松幸子姉と私を入れて10名足らずの信徒だったと思います。カンタベリークラブも復活され、新木順子姉、島袋末子姉、仲原功兄外何名かいたと思いますが覚えておりません。礼拝がすんでから小橋川兄が習字の奉仕をして下さいました。あの頃机がないので床の上に毛布を敷いて習字を行いました。



1968年頃沖縄型公会青年八重山キャンプがありました。諸魂教会も含めて30~40名だったと思います。西川司祭、佐久本兄、安慶田兄が引率でした。八重山の新川という景色のすばらしい処でした。先生方は砂地の処に祭壇を作り木の枝で十字架を立てて礼拝もし、陪餐も受けました。佐久本兄と安慶田兄の二班にわかれて使徒訓練ディスカッションも致しました。市内観光もし、夜はキャンプファイアもたきました。楽しかったです。

先生が会計をやるようにと云われたので私はやった事がないので辞退しますと申しましたら城間源哲兄の提案で「会計は一人でやるのはよくない、皆で交代でやった方がよい」と言われて2年~3年、5名で交代制で池原司祭様が在任中まで続けられました。

1969年現在の土地に首里聖アンデレ教会第1回日の建築が始まりました。先生

は金城珍成さんと土地問題で苦労なさったようです。さて婦人会は奥様入れて4名で膝あてを作り刺繡をして仕上げました。コーヒーセットも揃えました。膝あては祭壇の前に置かれ、コーヒーセットは食器棚の中に今も残っております。これらの品々を見ると当時の事が懐かしく思い出されます。先生は任期満了の為、工事なかばで帰任されました。

岡崎司祭様が着任され、1970年に首里聖アンデレ教会の礼拝堂と牧師館が完成し献堂式も行われました。岡崎司祭は祈りの家教会及び沖縄愛樂園もよく慰問なさいました。仲本ユウジ兄にギターを弾かせて、先生はお声がきれいので独唱をなさり、皆は合唱して訪問しました。先生はアンデレ在任中に二人の御子様を出産なさいました。守禮の門の守をとつて守と名付け、女の子を禮子と名付けられました。アンデレは水タンクが設置されていなかったので断水の時は水に困っていらっしゃるようでした。



1972年池原司祭様が着任されました。先生は何ごとにも積極的な方で着任早々礼拝の時、旧約聖書と新約は信徒が読むようにとおっしゃって、信徒訓練をなさいました。あの頃は文語体でしたので何回読んでも、むずかしくスムーズには行きませんでした。今度は証し。教会委員7名いるので月1回

「証し」をして下さいと云われたので何か月たった事でしょう。先生、証しするネタがなくなったので今月は休ませて下さいと云った覚えがあります。教会で奉仕する人、日曜学校教師訓練、アンデレの機関誌「櫓」の編集委員、バザーの準備をする人々、毎週数名は残りましたが、奥様は腹が減ったら戦は出来ぬと云って昼食を毎週提供して下さいました。私は日曜学校と会計を担当しておりましたので奥様の手料理に預かりました。その頃の沖縄聖公会の司祭様方の給与は小額でしたので台所は、火の車だったと思います。夜は週1回聖書の勉強会、ペテル聖研、旧約聖書一新約聖書2カ年がかりで教わりました。終わって後も信徒の悩みに耳を傾けられ、しんみになって聞いておられました。日曜学校と共に伊是名ヘファミリーキャンプ2度も連れて行ってもらいました。慈愛に満ちた御夫妻でしたので教会は温かく教会へ行くのが楽しみでした。

1984年に新城司祭様が着任されました。先生は琉球歴史がご専門でイースター

のたびに史跡巡りをして下さいました。南部のウキンジュ、ハイジュ、セファウタキ等も見学させて頂きました。私はどこも行った事がなかったので楽しかったです。着任されて4年後にアンデレ寮の家賃収入が入るようになって教会は余裕が出ました。どこの教会もそうだったと思いますが、80年代の終わり頃までは苦しい時だったと思います。教区分担金を納める為に1年に2回～3回バザーをしたり、目的献金、感謝献金の他に教区分担金袋を作成して皆から一律に徴集しました。私の記憶では、アンデレ寮の借入金の半額を教区が援助して頂いたと思います。それを忘れてはなりません。1990年の会計報告書に預金の金額を記載する事が出来た時、おもわず嬉し涙がこぼれました。これも新城司祭様の英知のおかげだと感謝しております。

2007年に姜司祭様が赴任されました。大変ユニークな司祭様でギターを弾いて唄ったり、踊ったり、首里聖アンデレ教会始まって以来の礼拝堂を、にぎわっています。先生は着任早々、信徒一人一人に面接をなさいました。家族構成、信仰歴、最後に「貴方は神はいると思いますか」と質問されました。「はい、神様はいらっしゃると思います。神様に守られていると思うから40年近くも礼拝に出席出来るのであって、そうでなければ途中でやめています」と申しましたら「いや、貴方は46年になります」と訂正して下さいました。宣教にとても力を入れていらっしゃいます。リックオーレン著「人生を導く五つの目的」（私は足の手術の為中断）も教えていらっしゃいました。聖句暗誦大会もやがて2回目を迎えます。行く行くはカンタベリークラブも復活させようと意気込んでいらっしゃいます。去年私が足の手術の為市立病院に入院したとき、奥様手造りのお菓子や見舞いを下さり陪餐も、たびたび受けさせて下さいました。ありがとうございます御座いました。感謝します。又奥様は先生を支えて、ケーキや韓国料理を作って皆を喜ばせています。アンデレ教会は変わることでしょう。大きく成長すると思います。



それぞれ異なった賜物をもった司祭様達又キリスト教精神を培った司祭様達に接して私の人生も変りました。多くの兄弟姉妹達に支えられ、今までやってきたのも首里聖アンデレ教会につながらせてくださった神様のお陰だと思います。私なりに三つ葉のクロバー（信仰、希望、愛）を胸に抱きつつ日々穏やかに過して行きたいと思います。主に感謝。

## 家庭的で温かく素晴らしい教会

カタリナ・喜舎場節子(77歳)

1987年主教仲村實明様でした。喜舎場絹子さんに誘われ、三原教会でのクリスマスやバザーに参加しました。皆様が親しく声をかけて下さったり、特に印像に残りましたのは、いつもにこにこと、笑顔の絶えない美しいご婦人が話しかけて下さった事、楽しい一時を過させていただきました。後に解った事ですが、笑顔の美しいご婦人は新城喬司祭様のお母様でした。



首里聖アンデレ教会に在籍し礼拝に出席する様になりましたのは、趣味友である宮里和子さんから「首里聖アンデレ教会は家族的で温かく素晴らしい教会なのよ」と、誘いを受けました。新城喬司祭様で主日の説教に感動いたしました事、私は常常此の世を去った親兄姉の事が気がかりでしたが、毎週の祈りの中に此の世を去った人々の祈りがありました事で心の安らぎを覚えました。牧師様や奥様には奉仕のやり方を教わり、沖縄の史蹟めぐりをとおして学んだ事等々楽しく過しました事が、よみがえってきました。大変お世話になりました。

思いおこしますと新城司祭様が獻堂聖別を書く様に、お言葉をいただきました時、私は感謝、感動と共に書くのが不安でしたが熱意を込めて書きました。幸せな喜びは例えようもありません。



姜勇求司祭様、説教は解りやすく、神の愛の奥深さを学んでいます。緊張の中に例えの説教で、ふと笑みがこぼれたりします。聖句を通して神の教えにうなずきながらも聖句を暗記し暗唱するのは苦難の業ですが、素晴らしい教会生活を忙しく過している今日此の頃です。

最後にクリスマスページェントの時、大人の皆様一人一人が主役を演じきられた事に感動いたしました。現在の私は主日の礼拝に出席しないのは不安にかられます。幾多の宗教から誘いを受けた私でしたが、神は唯一の主である神様の教えにお導き下さいました。感謝です。ありがとうございました。

いつも喜んでいなさい。  
絶えず祈りなさい。  
どんなことにも感謝しなさい。  
( I テサ 5 : 16~18)

あすのことを思いわずらうな。  
あすのことは、あす自身が  
思いわずらうであろう。  
(マタ : 6 : 34)

聖句を祈りの日課として心に留めています。



## 日一日と楽しくなり…

モニカ・神村タケ子(77歳)



首里聖アンデレ教会設立の歴史が、こんなに長い(古い)とは知りませんでした。今年50周年記念誌のお話を聞いた時は、本当に驚きました。それに比べ私が首里聖アンデレ教会の礼拝に出席したのは、僅か20数年しか経っていません。

私は約40年前に三原聖ペテロ聖パウロ教会で、当時の主教様チャ尔斯P.ギルソン様と仲村実明主教様(当時司祭様)の下で聖洗式、堅信式を授かる事が出来、主に感謝しています。しかし2.3年後に私事で20年余り教会から遠ざかっていましたが、不信心な私を再び教会に(主イエス様の元にお導き下さったのは、当時の首里聖アンデレ教会の新城喬司祭様と奥さん(笑子さん)が熱心に私を主イエス様の下にお導き、私も首里聖アンデレ教会に来ることができ、神様に感謝しています。

当初の私は、未信徒同様、礼拝の仕方を何も知らず、ただ戸惑いばかりでした。しかし司祭様や信徒の皆様の温かいお導きで日一日と教会に来るのも楽しくなり、お陰さまで今日は毎主日(殆んど)主イエス様の御前で礼拝、聖餐式、陪餐、説教などを授かる事が出来、充実した生活を送る事が出来、主に感謝いたしております。私が首里聖アンデレ教会に来て暫くして新しい礼拝堂が出来、司祭様初め、信徒全員喜んで毎主日礼拝をいたしております。又ある時は野外礼拝や沖縄の歴史の勉強会をしながらピクニックに行ったり、楽しい想い出が一杯です。



現在の首里聖アンデレ教会では牧師姜勇求司祭様のお導きの下で聖餐式、勉強会又礼拝後の楽しい愛餐会や色々なゲーム、郊外での信徒との交わりも姜勇求司祭様の熱心な取計いで皆喜んで日々主イエス様の祝福を受けています。又、降誕日(クリスマス)ではハンドベル(山川さん御夫妻の指導)や、子供達に変わってクリスマスページェント(大倉美智子姉妹指導)をしたり、私たち皆若返り、これからも色々と期待しています。婦人会ではオールター、掃除、食事当番等出来るだけ皆が協力し合って頑張っています。

今後とも、姜勇求司祭様の下で信徒全員が一致協力し一人でも多く新しい信徒が増え、主イエス様の御前で祝福が受けられます様お祈りいたします。

## 信 仰

マリア・仲村京子(73歳)

首里聖アンデレ教会で私は1995年12月に新城司祭、仲村主教(義兄)、そして宮里和子姉、仲村節子(義姉)のお世話になり、洗礼を受けました。でもその後、教会へは、病人(夫)の病気介護で忙しい事を理由に行く事はなかったのです。

そんな私が琉大病院で1年に2回の手術を受ける病気になり、さすがの私も「神様、お助け下さい」と祈りました。病室に祈禱書を置いているのを見舞いに来られた義兄は「手術室には、誰もついていけないが、神様だけはついていて下さる。心配する事はない」と云われました。その言葉で私の不安な気持ちが本当に救われました。不信仰の私はその時祈りました。「神様、もし私を生かしてくださるのでしたら、これから教会へ参ります」と。

久しぶりの教会で信徒の皆様は暖かく私を迎えて下さったことに感謝しています。首里聖アンデレ教会により今、私は神に出会い怖いものがなく信仰を持つ喜びを感じる事の幸せを感じます。



ある日の教会の勉強会の時、姜勇求司祭が韓國のおばあさん達は、聖書を3回も読破している方もおられるとお話をされました。それを聞きました私は、それでは沖縄のおばあさんである私もと思い、毎日20分～30分ですが、9月から始めて12月で詩篇も含めて読み終わる予定です。そしてこれからあと何回聖書を読破できるかを私の目標の一つにしたいと思っています。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい」(テサロニケの信徒への手紙Ⅰ、5章16節)。聖書の中の好きな御言葉の一つです。

## 思い出 あれこれ

スザンナ・宮里和子(75歳)

原稿用紙を開いたとき、目の前に浮かんだのは、今は亡き川平朝甫、翁長良起両兄の面影です。戦時、戦後の厳しい時代を信仰に生き全うされた良き先輩方、特に川平兄には喧々がくがくの教区会の帰り、信仰者としてのあり方など、いろいろお話を伺ったものでした。それと旅好きの兄を羨ましく思う私に、将来、旅をしたいのなら少しでも僕約して備えをしなさいと諭されました。お陰で近年旅を楽しむことができるようになりました。



首里聖アンデレ教会では、ある時期首里城内にあった琉大に近いことから毎年大学祭、首里文化祭に合わせてバザーを開き、教会、教区婦人会の活動資金に寄与しました。バザーで想い出されるのは、アンデレ名物「おでん」。前日、石川盛子姉の運転で午前4時、開南卸市場で（豚骨、鰹節をはじめ、昆布、こんにゃく、ウインナー、あげ豆腐、ちくわ、はんぺん）等を買い入れ教会に戻ると、司祭夫人を先頭に数名の婦人が次の仕込みに取りかかり、一晩じっくり味をしみこませる。バザー当日には近隣の方々が鍋を片手に買って下さったものです。一方礼拝堂では会衆席を片付け数ヶ月前から集められた衣類、引き出物などの仕分け、値段付け。森田トミ姉、石川富子姉、田港百合子姉、他、数人が夜遅くまで張り切っていました。その他、瀬戸物、やんばるみかん、さーたーあんだぎー、等々の出店があり仲々の賑わいでした。

首里聖アンデレ教会婦人会は森田トミ姉、上地恭子姉、宮里和子、山川美津姉が教区本部を勤めました。また、研修会では、古い因習、習慣、本家（ムートゥ

ヤー）の格式、トートーメー問題を婦人信徒としての関わりについて、故呉屋佳子姉（呉屋司祭のご母堂）と、石川盛子姉が強い信仰を保ち、いかに周囲との調和を図ってこられたかを穏やかな口調の中にも堅い信仰の「証」をして下さいました。

教区では信徒研修会が度々開かれ、又、「ビリーグラハム国



際大会」では、多くの未信徒、キリスト者が集い、皆が熱い思いに駆られていたとき、首里聖アンデレ教会でも教会誌「櫓」を発行する等、活気に充ち満ちていました。

弱い私たちが宣教の頑強者として、教会に連なる一人一人が福音を宣べ伝える闘いができるように、又、神の恩寵を受けて救いに入れられる命の櫓となるよう、詩篇61編3節、箴言18章10節に基づき、祈りを込めてつけられたのが「櫓」です。創刊号は、仲村実明主教、池原貞雄司祭、翁長良起牧師、川平朝甫兄、金城瑞子姉、上地安貞兄、他数名の信徒の証をもとにした教会誌です。特に発行に際しては、上地安貞兄が並々ならぬ信仰心と教会（キリスト・司祭・信徒）への愛に動かされ、積極的にとりくまれ編集して下さいました。司祭、上地兄の転勤で残された私たちは発行を続けることができませんでした。残念に思います。

私事では、婦人会本部、ACWCの総会に出席、常置委員となった年には、聖公会総会に出席、初めての女性司祭誕生の場に居合わせたこと等多くの学びと喜びがありました。

人生の節目や出来事にはいろいろあります。息子の結婚式を新城司祭司式の下、丘の上の諸魂教会で多くの祝福の中に挙げられたこと等々、思いおこすとこれま



での教会生活が何と恵みに充ち溢れていたことか...。特に母を見取った時、家を建てた時、お墓を建立した時等々。これらは信徒の交わりで大きく私に関わった出来事でした。母は森田姉を通してオリブ山病院へ入院、キリスト教の礼拝に出席でき、最後の数時間は自宅で家族に見守られながら召されました。

家を建てた時は仲村主教様による宅地の聖別、石川姉には家が完成するまで安く貸して頂きました。又完成時には翁長兄、宮里兄を先頭に婦人会のメンバが掃除に駆けつけて下さり、後、池原司祭による祝福式があり感動と感謝の思いを深くしました。お墓の建立の際は古い因習にとらわれずに新城司祭による起工式、完成時には感謝祈祷と神様は聖職、信徒を通して強く働き、私の思いを遙かに超えて支えていて下さいます。感謝！

## キリストの心を心とした教会

ゴルゴニア・山城トミ子(74歳)

私が始めて首里聖アンデレ教会を訪ねたのは、平成5年の11月頃でした。教会では礼拝後新城先生より信徒の皆様に紹介され、皆様が拍手をして喜んで下さったのには大変感激致しました。しかし心の中では少し不安も抱いていました。それは今後教会の皆様と仲良くして行けるだろうかとの事でした。私は祈りました。「神様、この弱い私を助け、強い信仰と勇気を与えて下さい」と…

礼拝の時には新城先生の奥様が私の隣に来ていろいろ教えて下さいました。そして礼拝に出席している内に信徒同志の暖かい家庭的な雰囲気の中で私はこの教会こそ「キリストの心を心とした教会だ」と思いました。入会式までは先生が私のために祈って下さいました。

平成6年1月9日仲村主教様によって入会式に参加させていただき、首里聖アンデレ教会の信徒となりました。礼拝後の短い聖書研究も大変益になりました。私は首里聖アンデレ教会の信徒になって初めて神様の愛を知り聖書を読むようになりました。「何をするにも人に対してではなく主に対してするように心から行いなさい」(コロサイの信徒への手紙3章23節)、また「悪に対して悪を返さずすべての人の前で善を行うよう心がけなさい」(ローマの信徒への手紙12章17節)という御言葉は、生涯忘れる事のできない聖句となりました。

今ふりかえってみると、この様は私をも主は忘れる事なく教会に導いて下さったことに感謝の念で一杯です。そして新城先生御夫妻をはじめ信徒の皆様の暖かい愛に支えられて私は神様の愛と、喜び、平安と希望を得、すべてに於いて主に感謝するばかりでした。教会では毎月新城先生の奥様が食事を作って下さり、特にあのスパゲティ料理のおいしかった事は今でも忘れていません。とても感謝しています。



それから一番の喜びは毎主日教会へ行って神様を礼拝し讃美し、一週間の出来事に感謝し、信徒の皆様と語り合う事が楽しくて、とても幸せな気持ちになりました。帰宅後は少し疲れて2時間位休むことの連続でした。車に乗って遠いところに行くにも腰痛に悩まされて、イース



ターの時など、殆ど行った事はありませんでした。その様な中で一番思い出に残っているのが米須の「平和の礎と平和史料館」に行った事でした。

そうしている内に新城先生が停年になり、教会を去られる事になりました。約7ヶ年余り家族同様に親しくさせていただいたのにと思うと大変淋しい思いもしましたけど、先生の奥様が「もう私達の事は忘れて新しい司祭について行きなさい」と忠告をして下さいました。勿論司祭は変わっても神様が中心だから、新しい司祭について行くのが当然だと私は思いました。

その後は目崎執事と成司祭がいらっしゃって教会は活気に満ち溢っていました。成司祭は大変親切で聖書のこともいろいろ教え導いて下さいました。約1年余りで島袋諸聖徒教会に赴任され、せめて後1年でも私達を教え導いて下さいと皆涙を流してお願ひしましたが、人間の思いと神様の思いとは異なり、どうする事も出来ませんでした。

その後は谷主教様と目崎執事に変り、降臨節と大斎の時に「黙想集」を一生懸命やった事が良い思い出となっています。成司祭が去られてからは谷主教様、上原司祭、呉屋司祭、新城司祭、目崎執事と毎週交代で聖餐式をして下さった事には大変感謝いたしました。

そうしている内に今度は韓国から姜勇求司祭と奥様の高英珠さんが来られ、姜先生は首里聖アンデレ教会の牧師になられました。高さんはとても親しみ易しくて、信徒とすぐ友達になりました。高さんはソプラノ歌手でとても声がきれいです。更に韓国料理やケーキなども作って下さいます。とてもおいしいです。教会では何時も笑顔で信徒を迎えて下さり、今では教会の大きな支えとなっています。



姜先生はすべて何事にも熱心で、今迄の教会とは異なり私達信徒をふるいたさせてくださいました。聖書の勉強は勿論の事、主日の説教も詳しく説明をなさり、更にプリントをして信徒に配って下さるので大変感謝しています。説教の時には一生懸命聴いているつもりでも、家へ帰って来たら忘れていた事があったからです。姜先生は特に「宣教」に対して熱心で、そのためには信徒である私達が神様の事をよく知らなければいけないという事で、「人生を導く五つの目的」という本を毎週水曜日昼と夜の部に分けて懸命に教えて下さいました。しかし神様の事を知れば知る程、心は燃えても体は動かず、もう少し若くて健康であれば良いのにと思う時もありますが、「すべてに於いて時がある」と聖書にあるように自分の体のある限り、神様に喜ばれる様に生活をしなければと思います。

## 神様のご計画に日々感謝

アグネス・宮城久子(70歳)

主の御名を讃美し感謝します。主の豊かなる恵みと祝福の中に首里聖アンデレ教会が、50周年を迎える、主の道を歩むこの教会の信徒及び求道者一人一人を主の器として用い、導いて下さるようにお祈りします。これまで私の数多くの思い出の中から少しだけ書きたいと思います。



2000年4月23日に篤正(夫)と孫の智香と優里絵が新城喬司祭から洗礼を受ける恵みに預かることが出来、感謝の気持で一杯でした。幸いにも仲村実明主教様が主人の教父母になって下さいました。クリスチャンネームについては「レオナルドはどうかな」と提案してもらい、絵を描く主人は喜んですぐに決めました。結婚して38年目のお祈りを神様は聞いて下さいました。その時の感謝の気持ちには大いなるものがあり、ただただ「主よ感謝します。」と神を讃えるばかりでした。その年の7月30日に谷昌二主教から按手を受け、多くの恵みと豊かなる祝福を受けました。そのおかげもあり、主の証人として、日々感謝しつつ、沖縄県立芸術大学の校長(現在は退職)として、職務に専念をさせていただきました。

さて、私は今、沖縄教区にある5つの保育園と2つの幼稚園の幼児教育を担当させていただいている。この業務の担当者になつたいきさつを手短に書きます。「保育園・幼稚園を担当する人を教区は募集しています」に対して「私はそれに応募してみたいのですがどうでしょうか」と尊敬する当教会の姜勇求司祭に相談をし



ました。すると「年令でひっかかる様でしたら、神様の御心ではありませんから、その時はあきらめたらいいですよ」とおっしゃったことを今でも心に残っています。

そこで、すぐさま、担当者の成成鐘司祭に申し込みの電話をしました。おかげさまで

いろいろとご配慮いただき、50回の教区会で決議され、2009年1月6日に谷昌二主教より辞令交付を受けて現在に至っています。姜司祭には「いろいろご助言をいただきありがとうございました」と挨拶をすると、すかさず「あなたの仕事は愛を伝えることですよ」と云われ、改めて気が引きしめる思いでした。

神の豊かなる恵みと祝福を受けながら、保幼共育部の仕事に専念したいと思います。皆さま方のお祈りとご協力をよろしくお願ひします。



## 首里聖アンデレ教会につながって

プリスカ・田港百合子(69歳)

私は1971年の秋に名護聖ヨハネ教会から首里聖アンデレ教会に移籍しました。新しい教会生活は、岡崎正司祭のもと、カントベリークラブの学生や、故川平朝甫兄や娘さんの洋子姉、故理子姉も熱心に主日の聖餐式を守られて、礼拝後のティータイムは、和ごやかな温かい雰囲気で、日曜日の礼拝が楽しく待ちどおしく思われました。



1972年の日本復帰を待たずに、岡崎司祭一家が神戸へ帰られて、新しく池原貞雄司祭が赴任されてきました。池原司祭とチトミ夫人の人柄もあり、司祭の御兄弟姉妹をはじめ色々な方が教会に来られて、教会は活気に溢れて宣教の場も広がりました。時折開かれる福村喜美子姉のお宅での家庭集会に、私は娘と一緒に出席しました。日々に繁雑さから解放され、静かな「夕の礼拝」により信仰を身近に感じ、大好きな「聖なるおとめマリアの頌」を唱え、満ちたりた時が与えられ感謝でした。また、夏のファミリーキャンプで伊是名村に行った時は、主日の礼拝では得難い信徒の関わりを体験でき神の家族である共同体という教えを実感しました。

1974年頃、琉球大学のキャンパスが首里城内にあり、琉大祭に合わせて教会でもバザーを行い、全信徒で準備にとり組み、近隣の人々から喜ばれたことも良い思い出です。

1983年に新城喬司祭が赴任されてきました。その頃私は住んでいる地域のボランティアやPTA活動で主日の礼拝を休むことが多く、そんな時に新城司祭と故高橋享司祭が訪ねて下さり、私と家族のために祈っていただき嬉しく感謝の気持ちでいっぱいでした。暫くして、主人が体調をくずして10ヶ月の入院生活を送り、私



は不安な日々を過しましたが、司祭始め信徒の皆様のお祈りとお見舞いに大変勇気づけられました。偶然にも新城司祭が入院先の院長先生と同期ということで、いろいろと良くしていただき不安な日々に立ち向うことが出来ました。

新城司祭は郷土史に造詣が深く、イースターには首里、那覇の史跡めぐりをして下さり楽しく学びの時が与えられました。また、息子の学校の成人学級で南部の史跡巡りの講師も心よく受けて下さり、PTAの方々から感謝されました。

新城司祭退職後は、谷主教様始め、上原司祭、呉屋司祭、成司祭、目崎執事、石原執事と多くの聖職の方々が首里アンデレ教会に御奉仕していただき、主の見守りのうちに過すことが出来たことを感謝しております。

私は、自身の信仰の弱さから教会のあり方について行くことが苦痛になり、背を向けたくなることが度々ありましたが、谷主教様始め司祭様、信徒の皆様の深い愛に支えられ、首里聖アンデレ教会につながり信仰生活が続けられていることを感謝しております。

私は、常に教会、家族、社会の狭間で悩み揺れ動き、自己中心的な生き方に陥る自分が情けなくなります。そんな弱い私もキリストは、手をさしのべ受け入れてくださいます。その愛にならい「地の塩」としての働きが出来るように信仰を深めていきたいと思います。



## 首里聖アンデレ教会との関わり

ヒルダ・福村喜美子(69歳)

私と教会との関わりは、中学1年生の頃だと記憶しております。教会は小さな離島の丘の上に、木造のかわいい小さな教会ができ、その名は「伊是名聖靈教会」といい、当時は専任の司祭はおらず、那覇から交代で、あるいは夏休みなどには東京からの神学生が見えて、その方々のお話を聞いておりました。



私が中学2年生の頃、野々目神学生の立会いの下で、ヘフナ一司祭より洗礼を受けました。ヘフナ一司祭は大変優しく、米国人ながら日本語がお上手で、私は楽しく神様の教えを勉強させていただきました。その後、大阪教区の柳原主教のもとで堅信式を受けました。

私は名護高校に進学し、名護聖ヨハネ教会で礼拝を捧げました。当時の司祭はハイオ司祭でした。ハイオ司祭は、大変厳しい御方でしたが、時には優しさもあり、伊是名出身の子供達を集めて、神様の教えをやさしく教えてくださったこともあります。

私が高校を卒業した後は、那覇市識名に移り住み、当時住んでいた自宅近くの三原聖ペテロ・聖パウロ教会に通い、そこで仲村司祭から神の教えを受けました。その時点で、伊是名聖靈教会での教籍を三原聖ペテロ・聖パウロ教会に移籍されました。三原聖ペテロ・聖パウロ教会は、当時としては新しくとても広く、そして仲村司祭のとても説得力のある説教は大変魅力的で、私はとても充実した日々を過ごしていました。



その後、縁あって主人と結婚し、住居を首里に移し、教会も首里聖アンデレ教会へ変えました。思えば、教会を4ヶ所も渡り歩いてきたことになります。当時の首里聖アンデレ教会は歴史のある古い小さな教会でした。私と首里聖アンデレ教会との関わりは、そこからが

始まりでした。当時の首里聖アンデレ教会は、池原司祭が牧会活動をなさっていました。池原司祭より私の子供達三人は幼児洗礼を受けさせ、夫は仲村主教から堅信式を受けることになりました。その後、池原司祭は転勤となり、後任に新城司祭が首里聖アンデレ教会に就任。そこで牧会活動を始められ、私達は主日礼拝を捧げるため、教会に通うことにしました。

私はこれまで、特に教会における奉仕活動は行っておりませんでしたが、ある日、礼拝後に、新城笑子姉より「献金袋を作りたい」との提案があり、たまたま私は若い頃から刺繡を続けてきたこともあり、裁断された生地に刺繡をする担当となりました。この機会が神様から与えられた大きな賜物であると思い、感謝と喜びをもってご奉仕することとなりました。その間、新城司祭のご指導のもと、娘二人も堅信を受けるチャンスを与えられ、谷主教によって堅信式が行われました。



私ができることは古くなった聖具を新調することで、婦人会活動の一環として手作りで行うことになりました。まず生地を購入し、裁断。図案を作り、生地にそれを写す。生地にそった刺繡糸を決め、配色。そして、刺繡にとりかかりました。まずはチャージブルから、ひと針入魂。心を込めて刺し、完成させました。次に祭壇掛け、説教台掛け、聖書台掛け、チャリス、献金袋など数多く完成させることができました。その後、他教会の聖具もお手伝いすることとなりました。

ある時、首里聖アンデレ教会では、谷主教のご指導のもと聖書の勉強会があり、私も参加することになりました。聖書について学ぶほど、聖書とは奥深いことを知ることができました。そして、この勉強会によって、信仰と愛と希望を深く体験することができたことに深く感謝いたします。

また持ち回りで、首里聖アンデレ教会が沖縄聖公会婦人会の本部となり、活動することになりました。本部活動の一環として、韓国ソウル教区の婦人会と交流し、相互の訪問を婦人会代表の山川美津姉の計画のもとで行うことになりました。その時のお土産として小物袋を作ることが決められ、生地への刺繡を再度私が、担当することになり、かわいいすてきな小物袋ができました。韓国訪問の際、当地の婦人会の方々に差し上げて、大変喜んでいただけました。また、平成21年9月には、日本聖公会創立150年式典にも参加させていただき、宣教の歴史の重みをひしひしと感じ、また総裁主教の説教もすばらしかったことに感動をおぼえました。

主に感謝。

## 「主の家に私は帰り…」

フランセス・大嶺清子(67歳)

受洗後、長い年月クリスマスクリスチャンで過ごした「迷える子羊」。罪の限りを尽くした放蕩娘。神はそんな私を憐れみ、去る2009年11月10日帰天された横田富士子伝道師と石川富子姉を用いて首里聖アンデレ教会へと導かれました。暖かく迎えてくださる新城司祭ご夫妻、優しい先輩方に支えられ、随分と道草をして来た私がやっと生まれ変わることが出来ました。



神に向き合い、あの道草もすべて神のご計画、恵みの時であったと思える様になりました。50周年記念誌発行に当たり、転籍し未だ23年の私をも関わる事が出来ます恵み。神の愛と憐れみに感謝し、与えてくださった大きなタラント健康な体を、生きた賜物として捧げていきたい。

谷主教ご夫妻、成司祭朴司祭ご夫妻、目崎司祭ご夫妻、呉屋司祭ご夫妻、姜司祭ご夫妻、そしてアンデレ教会の皆様との出会い。親しい交わり、たくさんの出来事の中で、多くの事を学ばせて頂きました。特に2003年10月。主教夫人の利子さん、目崎司祭夫人の宗世さんと共に始める事が出来た聖具を整える会、マリヤ・マルタ会。皆様の祈りと多くの方の協力に支えられ、続けて来られた事。本当に素晴らしい神のご計画に感動。

私を変え、心に残った出来事の中から。



古い礼拝堂でのある主日。島さん(熊本在)が、突然「大嶺さん、今日の日課を読んで下さい」と聖書を持って来られた。私は驚き、「いいえ、私には出来ません」とお断りをした。島さんは笑顔で「あなたなら出来ますよ」と。え！ 私なら出来る？？ あの日、足が震

え、頭が真っ白になった事、今でも覚えています。

ある主日。夫の事で腹が立ち、家に居たくなく早めに出かけました。新城夫人がエプロン姿で、忙しそうに礼拝の準備をして居られました。笑子夫人は私を見て「あ！良かった。聖歌表を替えてちょうだい」と言われました。週報を確認しながら差し替えました。笑子夫人は笑顔で「有り難うね」と。あの頃の私は、礼拝の準備は司祭夫人がなさるものと思っていました。些細な手伝いに「有り難うね」と笑顔。この一コマが奉仕への目覚めの原点になっています。

又ある時。新城司祭の説教の中で、礼拝に遅れる事は良くないと話されました。在職中の私は時々遅刻をしていました。神が新城司祭を通して、特に私を戒めて居られる様に思えました。礼拝を守る心構え、行いを意識の中で変えなければと痛切に感じました。その後、朝のオルター奉仕の恵みに与り、静聴の時が与えられています。主に感謝。

「主の家に私は帰り、生涯そこにとどまるであろう」（詩編23：6）



## 「私の愛にあずかりなさい」

マーガレット・名嘉るみ子(62歳)

私が首里聖アンデレ教会の礼拝に初めて出席したのは2003年5月、母方の祖母サラ伊礼喜久が神様に召された1ヵ月後のことでした。私は祖父母を尊敬していましたので、祖母が亡くなつたのは、とても悲しい出来事でした。



祖母は三原聖ペテロ聖パウロ教会で葬送式を行い、しばらく預けてあったので、三原の教会へ行くべきでしたが、祖母のことを思い出し辛くなるので行けませんでした。私は教会へ行って祖母の事をお祈りしたかったので、叔母達も首里聖アンデレ教会に来ていましたので、首里聖アンデレ教会に来ました。

当時、目崎執事ご夫妻、成成鐘司祭と朴司祭が牧会されていました。主日礼拝で祖母の事をお祈りしました。礼拝で「生きている人も亡くなった人も神様がお守り下さいますように」と言うお祈りを聞いたので、少しずつ心が落ち着いてきました。

ある日、教会から「私の愛にあずかりなさい」と書かれた葉書がきました。暫くして突然、大嶺清子姉妹が「クリスマス前に洗礼を受けたらどうね」と言われました。意外な事でした。私は1、2年教会に通って、ゆっくり考えようと思っていましたが誕生日も近かったので、決断して洗礼を受ける事にしました。司式は成司祭でした。マーガレットと教名もいただき嬉しかったです。成司祭が「神様の家族になった」とおっしゃった事は私にとって喜びでした。教父母は山川宗雄、美津ご夫妻です。後日、主教様による堅信も受けさせていただきました。

私は日曜学校の教師補をし、教師会に参加させていただきました。朴司祭は日



曜学校のためにいろいろと尽くしてくださいました。感謝です。成司祭による洗足式は生まれて初めての経験で心に残る思い出となりました。間もなく、成司祭と朴司祭は島袋諸聖徒教会へ転勤になりました。さびしくなりましたが後日、教師会や、婦人会の集まりで諸聖徒教会へ

行く機会がありました。

第一主日には主教様がいらっしゃって、良い説教をして下さり、愛餐会を共にして下さいました。感謝です。目崎執事は後に司祭になられ、宗世さんはマリア・マルタ会で刺繡等を教えられ、三原教会のバザーに出品されました。

目崎司祭退職後、姜勇求司祭ご夫妻がいらっしゃいました。姜司祭はいろいろと意欲的に教会の事に取り組んで下さり良い説教をして下さいます。私の個人的な事では週報に世を去った家族のための祈りで、亡くなった妹マリア澄江が記載され、とても嬉しかったです。又、闘病中の父の事もお祈りしていただき有りがたい事だと思いました。高さんはおいしいお菓子や料理を作られたり、信徒の皆さんとよく話をなさったりと、いろいろご奉仕して下さいます。感謝です。

私は今、主日礼拝で保育園の園児達が、けがもなく健やかに育って行く事、闘病の末に神様のみもと召された父といとこのセシリ亞・平良尚美さんの事を神様に祈っています。姜司祭、高さん、信徒の皆様にお世話になりました。ありがとうございました。



## 夫の実家のある首里へ

アグネス・島袋博子(54歳)

首里聖アンデレ教会設立50周年おめでとうございます。初めて首里聖アンデレ教会の礼拝に出席したのは18年前でした。結婚して浦添市に住むことになり、一番近くの教会をさがしたところ、首里聖アンデレ教会に決めました。当時の司祭は新城司祭でした。建物も小さく、寮もありませんでした。駐車場のまん中には大きなガジュマルの木がありました。教会の中の様子はどうだったのか殆んど覚えていません。



それから約3年後、大宜味村へ引っ越すことになり、教会は名護聖ヨハネ教会へ行くことになりました。10年程大宜味村で暮らしている間に、首里聖アンデレ教会が新築されました。残念なことに、建設中の様子を一度も見ることができませんでした。

夫の実家のある首里へ戻ることになり、以来6年の歳月が過ぎました。2008年の12月に母を引きとることになりました。これまで諸聖徒教会で50年以上過ごしてきたわけですから、友だちと離れるることはとても残念だと言っておりました。しばらくの間さびしそうな顔をしていましたが、今ではすっかり首里になじんできたようです。偶然なのでしょうか…。母と妹の家族、私の家族はまた同じ教会で礼拝に参加することになりました。これも神様の恵みと導きのうちにあるものだと感謝しております。

首里聖アンデレ教会の信徒の皆様にはいろいろな面で助けていただき、ありがとうございます。これからも皆様と共に、5年、10年、20年と学びながら歩んでいきたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。



## 彦チャンと浩樹くん

クリストファー・大倉信彦

私は高知聖パウロ教会で幼児洗礼を受け、父の仕事の都合のため生後100日で千葉市に転居しました。もちろん、0歳の時の記憶などありませんから、親から聞いた話です。千葉では、千葉復活教会と教会付属の双葉幼稚園で、0歳から4歳までの幼児期を過ごしました。4歳までの教会や幼稚園での出来事の記憶はほとんどありませんが、暖かく居心地の良かった感覚が心の奥の方に残されています。



今年の1月に岩佐執事の聖婚式が島袋諸聖徒教会であり、出席者の中に横浜教区のジェローム村上守旦司祭がいらっしゃいました。その時に、村上司祭が私に、「彦ちゃん（千葉の教会でわたしはこう呼ばれていました）かい、憶えてないだろうけど、彦ちゃん一家が復活教会に来ていた頃、私は青年会のメンバーで、彦ちゃんとはよく遊んだものだよ。」と話しかけてくださいました。村上司祭の記憶は私にはありませんでしたが、千葉の教会での暖かい居心地の良さを作り出してくれていた人の一人に再会できたのは確かでした。

私は、中学生から30歳くらいまで、教会から足が遠のいていました。教会に帰ってくることができたのは、幼少期に味わった教会の暖かさと、多くの人のお祈りのおかげだと思っています。

私が首里聖アンデレ教会の一員となったばかりの頃、今から20年近くも前のことですが、外間マツさんに連れられて、孫の比屋根ひろき君が教会に来ていました。小学生になる前の利発で元気な男の子でした。私の精神年齢が近かったからでしょうか、30過ぎの私になつてくれて、たっくわい・むっくわいしながら、よく



一緒に遊びました。今や立派な青年になったひろき君が、教会に帰ってくる日を楽しみに待っています。そして、祈っています。村上司祭が私に話したように、私はひろき君に、「マツさんに連れられて来たひろき君と、この教会でよく遊んだね。」と話しができたらと思っています。

## 大好きなアンデレ教会

ベタニアのマリア・大倉美智子

私は3歳の時、島袋諸聖徒教会で洗礼を受けました。その時から27年間、諸聖徒教会の信徒の一員として過ごしました。幼少期から青年期というまさに多感な時期を過ごしたので、諸聖徒教会での思い出はひとつしあります。特に新城司祭ご夫妻の影響は大でした。教会のことを何一つ分からぬ私でしたが、新城司祭に日曜学校、宣教部、GFS、青年会などの奉仕を勧められて、Noとは言えず、渋々引き受けたのを憶えています。今にして思えば、あの時一つ一つの集会で学んだ事、感じたことが、今の自分に影響を与えたことは言うまでもありません。



その新城司祭が首里聖アンデレ教会に転勤となり、その数年後自分もまた結婚して首里に住むことになり、首里聖アンデレ教会に通うようになるとは夢にも思っていませんでした。しかし首里での生活はわずか3年ほどで、夫（信彦）の学びの為、今度は福岡へ引っ越すことになりました。送別会までして頂き、もう沖縄には戻って来ることはないだろうと思っていたのですが、7年後、再び沖縄で暮らすことになるとは、これまた、思ってもみないことでした。沖縄に帰ってから住んだ所は宜野湾市の喜友名というところでした。そこから首里聖アンデレ教会は少し遠いのですが、新城司祭ご夫妻をはじめ信徒の皆さんとの温かい雰囲気が好きで、帰ってからも首里聖アンデレ教会に通わせて頂くことにしました。

現在、牧師を務めておられる姜司祭は沖縄に来られてからまだ数年という日の浅さにもかかわらず、日本語が上手でその上達の早さには感心させられます。見



えない所ですごい努力をされているのでしょうか！  
何にでも一生懸命で熱意がある姿を見ていると、何かお手伝いをしたいと思う気持ちになるのですが、実際には毎日の時間に追われ、何もできないのが現状です。奥さんの高さんは私と年が同じということもあって、

とても親しみを感じます。お料理が上手で時々大好きな韓国料理を頂くことが出来、幸せです。

今は、日々時間に追われオルガン奏楽以外の奉仕から遠のいていますが、時間に余裕が出来たら、何かご奉仕をしたいと考えております。首里聖アンデレ教会の発展を祈りつつ。



## 「私に繋がっていなさい」

マリア・福村元子（41歳）

私は主イエス・キリスト様との出会いは、首里聖アンデレ教会で両親が池原貞雄司祭のいらっしゃる時代に始まりました。それは洗礼を受けた1974年11月24日、5歳の頃だったそうです。幼少期の思い出として記憶に残っているのは、教会に来るとなぜか安らぐ。仕事に厳しくまじめな両親も、周囲の人との関わりに微笑んでいつしか優しく過ごせる時間でした。信徒それぞれの家庭の状況をよく理解されていて、一人一人に主イエス・キリストのご意志を様々な形で、お伝えになっていたのではないかでしょうか。後に、小中高校、看護学校から就職までは、積極的に祈りの時間を設ける日々は少なかった様に思います。教会へ向かうのは、クリスマスやイースターの時期に限っていました。



それから25年後、丁度看護師・助産師としての仕事に慣れ、8年目を迎えた頃。臨床の場で人の死や誕生の場に立会い、様々な疑問を解決できずにいた私は「私はなぜクリスチャンなのに」と自分自身に問うことが多くなりました。当時は新城喬司祭が牧会活動をなされていて、その勧めもあって、私が30歳を迎えた翌年1999年1月24日に首里聖アンデレ教会で、谷昌二主教様のもと、堅信を受けました。以後私の第二の教会との関わりの時期になりました。皆無に近い聖書の言葉から離れた日々を暮らしてきた私の生活が、教会も生活の一部に徐々に変化しました。

「何かにつまずいた時、又つまずきそうな時に、聖書や教会で祈るといい。」そう思うようになった30代でした。



朴先生、成先生の指導のもと、日曜学校のボランティア要員として奉仕していた事も貴重な経験になりました。聖餐式にいらっしゃる子供達と共に、日曜主日の子供礼拝も使命感をもって行っていました。日曜学校で過ごす子供達は、一階の集会室や二階の子供ルームで行うお祈りを、自

分達で交代して行える様になりました。子供礼拝のお祈り当番の時、おやつを食べる時、誰が教えるまでもなく子供達の間で助け合いを学び、自分より弱く小さい者への世話を憶え、賛美のお唄を歌ったり、レクリエーションも自然に行える様にまでなりました。姪や甥の代まで主イエス・キリスト様の十字架にかけられ死に倒れ復活に至る奇跡を伝える事が出来た様に思います。

30代後半、首里聖アンデレ教会では姜先生による聖餐式の際には信徒の皆さんが、信徒全員の健康や誕生を祝い祈って下さっている事に感謝しております。職場を新たにした40代も、益々神様との距離は深まっています。

「私に繋がっていなさい。」・・・

神により頼み、賛美する。毎日新鮮な空気を呼吸する様に、私の教会生活は途切れる事なく、主イエス・キリスト様からの祝福を毎日沢山頂いて続いている。ハallelヤ！！

